



11/24

金

食物アレルギーと、どうつきあっていくか⑤ 「経口免疫寛容」が、うまくいかななくても

前回ご紹介した「経口免疫寛容」を促す治療が仮にうまくいかなかったとしても、子どもの成長を待つて再チャレンジしてうまくいくこともあります。体の感受性、治療時の体調、ホルモンなどさまざまな要素があるので諦めないことが肝要です。一方で子どもたちは日々成長し、社会とのかかわりなしに過ごすことは不可能です。外食、宿泊などは保護者だけの課題と考えず、子ども自身もかわりながら知識や能力を身につけるべき事柄ではないかと思えます。容器包装された食品の表示は既に義務化されていますので、その見方を身につければ市販の多くの食品は選択できるようになります。まずはそこから練習し、「自分で選んで購入する」体験を積み、買った物の安全確認を親子でするとよいと思えます。

表示の見方は、外食時に役立つこともあります。大きなホテルの中には「食物アレルギーの人はスタッフに声をかけてください」といったメッセージが店内にあり、声をかけると分厚いファイルとともにメニューの順番やbuffet料理の並び順を示されることがあります。ファイルの中身は、それぞれのメニューで使われている加工品の原材料表です。子どもには、「自分で必ず確かめようね」と言いましょう。一見不親切なようですが、レストランスタッフの伝言ミスや判断ミスを排除できるのです、これは安心できるひとつの方法だと思えます。